

八中3年人権だより

徳島市 八万中学校
3年生 第7号
2024年6月14日
編集・文 吉成正士

中学生生活最後の人権作文によせて

これまでの人権学習で何を学んできたか、皆さんのなかに何が残っているか――。

「自分を語る」…人権学習の発表にしても、人権作文を書くにしても、とにかくそれに尽きます。それは、皆さんと出会った1年生の時から、ずっと伝えてきたことです。



人権について考えていくうえで、例えば徳島県としては次のような課題を挙げています。

- ①女性、②子ども、③高齢者、④障がい者、⑤同和問題、⑥アイヌの人々、⑦外国人、⑧H I V感染者・ハンセン病患者等、⑨刑を終えて出所した人、⑩犯罪被害者等、⑪インターネットによる人権侵害、⑫日本人拉致問題、⑬災害時における人権問題、⑭ほか、様々な人権問題

これら以外にも、いじめ問題や性的少数者の問題、人種・民族の問題、広くとらえれば、戦争や環境問題なども人権問題と言えます。けど、そんなことはどうだっていいのです(よくはありませんが)。とにかく、

あなた自身のことを聞かせてください。

分かりやすく書くことなど考えなくて構いません。自分の思うように書いてみてください。例年のように、原稿用紙3枚にはなるように書いてみましょう。本当にこれまでの人権学習が自分事になっているのなら、あれも書きたい、これも書きたい、と3枚では収まりきれないはずです。増えるのはいくらでも構いません。思う存分書いてみてください。



「自分を語る」と言っても、何もかもすべて、とはいかないかもしれません。言いたくないことは言わなくても結構です。でも、言える範囲で言えることを言う意味はあると思います。それは、あなたという人間を知り、理解してもらうために。そしてそうしていくことが、本当の意味で、「その人を知る」ということになり、「あなた自身のことを知ってもらう」ことになるからです。それが本当の意味で、「互いに分かり合う」ということになるのだと思います。それなくして、「互いを認め合う」ということにはならないのではないのでしょうか。それがあって初めて、「互いを尊敬する」ということになるのだと思うのです。「相手をリスペクトする」ということになるのだと思うのです。

どうしてそんなことをする必要があるのか。それは、どこにも寂しい思いをする子、悲しい思いをする子をつくりたくないからです。いじめや差別を本当になくしたいからです。

人は、自分が出せない関係性のなかで生活するとどうなっていくかということ、自分の世界に閉じこもるようになります。それはやがて、「自分ひとりだけ…」と

いう思考になり、「どうせ他人に言ったって分かってくれない…」となってしまいます。特に思春期の中学生年代はそうなりがちです。けど、本当にそうか?という、実はそうでもなかったりします。それは、この「先生」という仕事をしていてよく感じます。なぜなら、同じ思いをしている中学生は、割とたくさんいることを知るからです。だけど、みんながその殻を出ないから、相手の存在が見えてこない。本当は殻を突き破ってしまえば、同じ思いをもった仲間がたくさんいることに気づき、「あっ、自分ひとりじゃなかったんだ!」と思えるのだと思います。でも、その殻を突き破るには、勇気がいるわけですね。自分がどう思われるか不安だから。でも突き破って、「自分のことを言ってもちゃんと受け止めてくれる!」という実感さえあれば、言えるのだと思います。めざすは、そんな社会です。そんな学年であり、そんな教室です。どうでしょう?そうなっているのでしょうか。

難しいことは要りません。必要であり大切なことは、それです。だから、「自分を語る」のです。



でもそんな取り組みは一人ではどうしても難しいので、同じ思いをもつ仲間をつくり、つながり、増やす必要があります。しかし、その道のりは簡単ではありません。なぜなら、残念ながら人々の人権への関心は、決して高くないからです。ここでいう人々とは、八中の、と言っていいかもしれませんが、徳島の、と言っていいかもしれませんが、もしかすると、日本の、と言っていいかもしれませんが、けど、それでいいかという、決してそうではないと思うのですが、現実はその通りです。

教室を見渡してみてください、すべての人が、とは言いませんが、せめて1/3の10人くらいは、積極的に取り組む人となっているのでしょうか。あなたはどうか?そこに現れる意識が、この現実をつくっていると、言っていていいでしょう。ところが、「今・ここ」にある切羽詰まった自分事の問題となれば、あなたはもっと真剣に捉え、考えるはず。そんな経験をしたことのある人もいます。でも、今そうならないということは、やはり他人事だということ。そこを何とかして自分事に変えていきたいのです。



社会科の公民で、日本国憲法の3つの原則について学ぶと思います。この憲法を象徴するものです。

「国民主権、基本的人権の尊重、平和主義」

「国民主権」については、「天皇とか一部の人が主権者ではなくて、何事も国民が決められるように選挙がある」というくらいは分かると思います。

「平和主義」についても、修学旅行に絡めた平和学習で、何となく「戦争はダメ」ということくらいは分かっていると思います。

でも、「基本的人権の尊重」の「人権」についてはぼんやりしていて、「分かっているようで、よく分かってない」というのが正直なところでないでしょうか。3つの原則の一つにあげられるくらい大事なことなのに、実はあまり学ぶ機会がないのです。そのためには、私たち教員も学ばなければいけないし、学んだことを皆さんに伝えていくことが大事だと思っています。



それでも私たちは、その「人権」について、私たちに学び続けてきました。全体学習についてだけでも、これまでたくさんの人権問題について知り、学び、考えてきました。

人権を語り合う中学生交流集会、部落問題、ハンセン病問題、障がい者問題、SDGs、自然災害における人権、拉致問題(横田 滋さん)

また、「日本の人権獲得の歴史 中世・近世・近代」についても学んできました。

平和学習としても、

原爆(ヒロシマ、ナガサキ)、沖縄戦(対馬丸、特攻隊、「なでしこ隊」、ガマ、「さとうきび畑の唄」)、引揚者問題、在日コリアン問題、シベリア抑留問題、中国残留日本人孤児問題

などについて学んできました。各教室での学びや、お家での学びを加えると、もっとふくらむかもしれません。

そんな「人権」について学ぶなかで、大切な言葉もたくさんでできました。

「自分を語る」

「語り合うことは人権学習の基本」

「仲間づくりは人権学習の基本」

「決めつけ・押しつけ・思い込みが差別につながる」

「正しく知って正しく行動する」

「生まれで人生が決まらない社会」

「命の重さ・価値はどこに生まれても同じ」

「差別や偏見はいざというとき(非日常・ケガレ)に出てくる」

「私たちに生きる意味があるのよ」

「人権学習をすれば学力は上がる」

「熱と光 熱は思い、光は希望」

「吾唯足知(われただ足るを知る)」

「学び続けることを学ぶ」

「自問自答」

「思ったことを言わない教室は何も言えない空気をつくりだす 何も言えない空気はものが言えない社会をつくりだす」

「恥ずべき命・隠される命などない」

「すべての命はみんな等しく尊い」

「人間は尊敬すべきもの」

「恥でもないことを恥じるとき 本当の恥となる」

まだ他にもあったかもしれません。今までのファイルや人権だよりを見直してみてください。それらは今、皆さんのなかにどれだけ残っているのでしょうか。また、それにもとづいた行動につながっているのでしょうか。



人権作文とは、日ごろから自分が思い考えていることを書くものです。昨年書いてからの1年間、どんな体験があったのか、どんな気づきがあって、どんな心の揺れがあり、どんなことを学んで今の自分の成長につながっているかをつづるものです。

また難しいことを書くものでもありません。自分の書きたいこと、伝えたいこと、みんなに知ってほしいことを書くものです。そこには、友達との語らいや、教室での学習、全体学習・中学生集会の場面が出てくるかもしれません。もしかすると、本や映画、テレビやネットの世界が登場してくるかもしれません。そしてそこには必ずと言っていいほど、あなたにかかわる人々、友達や家族の姿があるはずです。そんな周囲の人々の支えの中で、あなたがどんな成長を遂げてきたかです。そしてそれは、あなたがこれからどんな生き方をしていきたいのかといった未来像へとつながっていくはずですよ。そんな人権作文を聞かせてください。

こう書くと、綺麗な作文を期待するように思うかもしれませんが、決してそうではありません。そこには、自分にとって恥ずかしいことや、情けないこと、隠したいこともあるかもしれません。それは泥臭かったり、生々しかったりするかもしれません。悲しい思いや悔しい思いもあるかもしれません。それにふれて、「自分を語る」ことです。そこを明らかにしていく行為こそが、自分の弱さや差別意識と向き合うことになり、自分の人間的成長へとつながります。



私が八中に来て8年。その間、新型コロナの影響もあり、思うような人権学習ができませんでした。人権学習を3年間かけて最後までやり抜こうとしてきたものの、ただの一度もできませんでした。今も思う存分できているかと言えば、そうでもありません。でも今、多くの先生方の協力で、満足のいくような人権学習ができています。本当に感謝です。そして残り半年、渾身の思いを込めて人権学習をやり抜いて、みんなの成長と卒業を見届けたいと思っています。

最後に。この人権作文の取り組みや人権作文意見発表会が、この学年の絆をさらに深めることにつながればと思います。誰もが、「ここにいられてよかった」と思えるような、そんな学年にしていきたいと思っています。

人権作文、思いを込めて書きましょう。

